農産ＦＡＸ情報　第５号

令和３年７月１５日
発行：ゆとりみらい 21 推進協議会 指導部会 幕別町忠類地区

７月に入り、曇天や断続的な降雨・多湿条件が続いています。
引き続き病害虫の発生に注意し、早期防除に努めてください。

１ 秋まき小麦

６ 月下旬に気温が高く推移したことで、登熟が進み、平年より４日早く乳熟期をむかえています。成熟期も早まることが予測されます。早めに収穫作業準備をし、適期に収穫を行いましょう。

(1)　収穫適期の判定

・子実水分 30%以下が収穫開始の目安です。こまめにほ場を観察し、枯れ上がりの早いほ場から収穫を決定しましょう。

(2) 収穫作業準備

・機械設備の確認や整備を行い、早めの作業準備に努めましょう。ひとたびトラブルが発生すると、収穫作業の能率にとどまらず、収穫物の品質にまで影響が出ます。
・コントラ等、集団で作業を行う場合は降雨等の緊急時対応を事前に協議し、周知徹底を図りましょう。
・圃場周辺の雑草の除去や取付道路の整備などを行い、収穫作業がスムーズに進めるようにしましょう。

(3)　収穫作業の留意事項

・部分的に倒伏が発生しているほ場が確認されています。倒伏や病害の発生部分は、別刈りや部分刈りの対応を行いましょう。

２ ばれいしょ

病害の対策については、今後も気象変化に注意し予防的防除に努めましょう。また、耐性菌の出現を防ぐため同一系統の薬剤は避け、ローテーション防除を行いましょう。

(1)　疫病防除

・小麦収穫作業との競合や天候不良が続き１週間～10 日の定期防除が難しい場合は晴れ間をみてダブルインターバル薬剤(残効期間が長い薬剤)を活用しましょう。

(2)　軟腐病防除

・高温多湿で発生が助長されるため、ほ場観察を徹底しましょう。
・倒伏すると多発しやすくなります。ほ場状況に応じて防除を行いましょう。

３ てんさい

(1)　褐斑病防除

・高温多湿条件で多発します。定期的に予防的防除を行いましょう。

４ 豆　類

(1)　菌核病・灰色かび病防除

・菌核病、灰色かび病は開花期以降の多湿条件で多発しますが、同時防除が可能です。開花始から１週間後を目安に１回目の防除を行ってください。その後は、10 日間隔で必要に応じて追加防除を行いましょう。

・灰色かび病で薬剤耐性菌が確認されています。以下の薬剤は避けましょう。

耐性菌発生薬剤	チオファネートメチル水和剤、フルアジナム剤、ジカルボキシイミド系剤

(2)　病害虫

・アズキノメイガ、ツメクサガ、ハダニ類は７月から発生が多くなる事があります。発生動向に注意し、早期防除に努めましょう。

これから収穫される作物が増えていきます

収穫予定作物へのドリフトに注意しましょう！

散布機に農薬が残らないよう洗浄は丁寧に！

作業中は休憩をとり、農作業安全に努めましょう！